

令和5年度ブラッシュアップ事業 授業改善研修会（小学校・社会）

授業力ブラッシュアップ研修会は、学習指導要領の趣旨や内容等に基づいた指導改善を図るため、モデル授業の提案を中心とした授業改善研修会を通して、教員の一層の授業改善・充実の促進に資することを目的に行われています。今号は、11月21日に一関市立室根小学校で行われた小学校社会の研修会について紹介します。

～部会テーマ～

問題解決的な学習過程の充実に向けた意図的・計画的な資料提示
及び ICT 活用能力を育成する授業づくり

～授業の視点～

- (1) 問題解決的な学習過程を経た社会科授業
- (2) 個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実にかかる ICT 活用
- (3) ソフト面からハード面への移行を重視した ICT 活用【効果的な電子黒板の活用】

～ブラッシュアップメンバー～

授業者	一関市立室根小学校 渡邊 彩香	教諭
支援員	一関市立大東小学校 刈谷 晋	教諭
支援員	一関市立藤沢小学校 吉田 翔	教諭

授業の様子から

- ◆地域の企業である「オヤマ」とおして学ぶ授業。児童にとって、身近であり、意欲をもって取り組めた。また、地域の魅力を感じることができキャリア教育の側面も含む学習であった。
- ◆紙媒体の資料、インタビュー動画等、様々な資料が準備され、児童が自由に選択できる。また、ノートにまとめる児童、タブレットにまとめる児童と様々で、学習の個性化が図られていた。
- ◆電子黒板に児童のノートを拡大提示したり、企業の方のインタビューを映し出したり、ICTを効果的に使用していた。



研究協議で話題になったこと

- ◆「資料の与え方」…「何が欲しいか」「何で調べるか」「何を調べたいか」情報の読み取り方・取り出し方の指導をすることが大切である。
- ◆デジタルとアナログ、効率的に使い分けが必要。その基準は個々で異なるが、デジタルも積極的に活用することが大切である。
- ◆キャッチコピーをまとめるのであれば、言葉不足であった。「キーワード」を基に「オヤマ」の思い等も含められるようにできるとさらに良かった。



講義・演習から学んだこと

「令和時代の社会科授業とその評価」

県南教育事務所 千葉 真 主任指導主事

- ◆授業のゴールは「育みたい資質・能力」であり、そのために「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善をし、生きて働く力を身に付けること。
- ◆「主体的」…見通しをもち、振り返りを行い、自分の学びを調整しながら粘り強く学習すること。キャリア形成に向けて目的をもつことが大切になる。
- ◆「対話的」…欲求（主体的な学び）から対話的な学びが生まれる。協働的な学習場面から自分の考えが広がるような新しい発見があることが不可欠。そのためには、みんなで話し合わないといけないような課題を与えることが必要である。
- ◆「深い学び」…どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか、「見方・考え方」を働かせることが大切。社会では、「位置や空間的な広がり」「時期や時間の経過」「事象や人々の相互関係」がどうなっているのかに着目して、社会的な事象を捉えることが大切である。
- ◆教師がアクティブラーナーになる。主体的な教師の学びが必要。



授業改善に向けて

<参加者の声（一部抜粋）>

- ・子ども達に知識を教えるだけでなく、資質・能力を育てていくための授業をしていかなければならないと感じた。そのために、具体的にどのような資料を準備して提示していけばよいか分かった
- ・個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させるために、ICTを有効活用していきたい。
- ・対話的な学びの質を高める。（ゴールを示し、新しい学びがある話合いにしたい。）
- ・子どもの思考（必要感）に合わせて資料を提示していく。

